

第11章 設定ページリファレンス

11

11

この章では、
本装置で設定できる項目をページごとに説明します。

かんたん設定（オフィスヘフレームリレー接続）.....	472
回線情報設定	474
LAN 情報設定	478
ネットワーク情報設定	483
IPフィルタリング情報（ネットワーク情報）.....	491
TOS 値書き換え情報（ネットワーク情報）.....	493
帯域制御（WFQ）情報設定	495
MAC フィルタリング情報設定.....	497
不特定相手情報設定.....	499
IPフィルタリング情報（不特定相手情報）.....	502
TOS 値書き換え情報（不特定相手情報）.....	504
装置情報設定	506

かんたん設定 (オフィスヘフレームリレー接続)

かんたん設定(オフィスヘフレームリレー接続)

⚠ 詳細設定で設定した情報は全て無効になります。

[必須設定] **FR** 

Si-R30のIPアドレス	192 . 168 . 1 . 1
Si-R30のネットマスク	24 (255.255.255.0)
相手ルータのIPアドレス	192 . 168 . 2 . 1
相手ルータのネットマスク	24 (255.255.255.0)
使用する回線速度	☐ 64Kbps ☒ 128Kbps
DLCI	16
CIR	32Kbps

[オプション設定] **FR** 

接続ネットワーク名	localnet
DHCPサーバ機能	☒ 使用しない ☐ 使用する
DNSサーバ広報	

“かんたん設定”では設定を終了すると、自動的に再起動され、通信を行うことができる状態になります。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

設定終了 キャンセル

[必須設定]

Si-R30 のIP アドレス／ネットマスク

本装置のIPアドレスとネットマスクを設定します。
0.0.0.0を設定しないでください。

相手ルータのIP アドレス／ネットマスク

相手ルータのIPアドレスとネットマスクを設定します。本装置はこの設定で得られるネットワークに対してスタティックルートを設定します。

使用する回線速度

使用する回線速度をチェックします。

DLCI

DLCIを16～991の範囲で設定します。DLCIを設定できるネットワークは16個までです。DLCIはフレームリレーを使用するときに、一本の物理回線上に設定される複数の論理的な通信路（データリンク）を識別する識別子です。

CIR

CIRを設定します。CIRは網が正常な状態において保証されるスループットです。本装置が輻輳制御動作を行う場合はCIRを基準としてスループットを制御します。

[オプション設定]

接続ネットワーク名

ネットワークを識別する名称を半角英数字8文字以内で設定します。

DHCP サーバ機能

DHCP サーバ機能を使用するかどうかを設定します。

DNS サーバ広報

必要に応じて接続先またはネットワーク管理者に指示されたDNSサーバのIPアドレスを設定します。設定する値はDHCPサーバ機能により広報されます。省略するか、0.0.0.0を設定する場合は広報を行いません。

回線情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「回線情報」

回線情報設定	
回線情報	ISDN情報
回線情報 ☒ ISDN ☐ HSD(64Kbps) ☐ HSD(128Kbps) ☐ フレームリレー(64Kbps) ☐ フレームリレー(128Kbps)	
ISDN情報 自動ダイヤル ☐ すべて禁止 ☐ 相手毎に設定 着信動作 ☐ すべて禁止 ☐ 相手毎に設定 自局番号チェック ☐ しない ☐ する チェックする番号1 電話番号を指定 サブアドレス チェックする番号2 電話番号を指定 サブアドレス グローバル着信 ☒ 利用する ☐ 利用しない	
発信者番号通知 ☒ 網契約に従う ☐ しない ☐ する 通知する電話番号 通知するサブアドレス	
回線接続保持タイム 2 時間 ☐ しない ☒ する	
課金制御 ☐ しない ☒ する 時間 上限時間 0 日 制御動作 ☒ 発信抑止 ☐ システムログ出力のみ 金額 上限金額 3000 円 制御動作 ☒ 発信抑止 ☐ システムログ出力のみ	
フレームリレー情報 PVC状態確認手順 ☒ 使用する ☐ 使用しない CLLMメッセージ ☒ 使用する ☐ 使用しない 転写通知ビット ☒ FECN ☒ BECN	

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合は キャンセルをクリックしてください。

更新

キャンセル

【回線情報】

使用する回線の種類を設定します。

回線インタフェース

以下の5つから使用する回線を選択します。

ISDN

INS ネット 64 などの ISDN 接続の場合にチェックします。

HSD (64Kbps)

ハイ・スーパー・デジタル (HSD) や DA64 などの専用線の場合にチェックします。

HSD (128Kbps)

ハイ・スーパー・デジタル (HSD) や DA128 などの OCN エコノミーや専用線の場合にチェックします。

フレームリレー (64Kbps) (オプション)

64kbps のアクセス回線でフレームリレーを使用する場合にチェックします。

フレームリレー (128Kbps) (オプション)

128kbps のアクセス回線でフレームリレーを使用する場合にチェックします。

【ISDN 情報】

ISDN を選択する場合だけ、以下の項目を設定します。

自動ダイヤル

データ通信が発生したときに自動的にダイヤルするかどうかを設定します。

すべて禁止

本装置からの自動ダイヤルを禁止するときは、“すべて禁止”をチェックします。

データ通信発生時にも自動的にダイヤルしません。

相手毎に設定

相手情報のネットワーク情報設定で対象を設定します。

着信動作

外から本装置に対して着信を要求してきたときの動作を設定します。

すべて禁止

着信を装置全体として禁止するときは、“すべて禁止”をチェックします。データ通信の着信をすべて拒否し、発信専用にします。

相手毎に設定

相手情報のネットワーク情報の接続先情報設定で設定します。

自局番号チェック

ダイヤルイン番号やサブアドレスを利用して着信機器を識別するかどうかを選択します。

しない

着信時に自局の電話番号をチェックしません。

する

ダイヤルイン番号や i・ナンバー、サブアドレスを利用して着信機器を識別します。

この番号は2つまで設定できます。

チェックする番号は、以下の中から選択します。

- ・電話番号を指定
- ・i・ナンバー情報1（契約者回線番号）
- ・i・ナンバー情報2（追加の番号）
- ・i・ナンバー情報3（追加の番号）

“電話番号を指定”を選択する場合、右の記入欄に電話番号を32桁以内で設定します。

また、どれを選択する場合もサブアドレスを19桁以内で設定します。

“電話番号を指定”を選択し、右の記入欄に電話番号を記述せずに、サブアドレスだけを設定する場合、電話番号は任意となります。

グローバル着信を行う場合は、“グローバル着信”を“利用する”に設定します。

■ 参照 「ダイヤルイン／グローバル着信機能を使う」(P.287)

発信者番号通知

発信者番号通知の内容を変更する場合に設定します。通常は“網契約に従う”の状態の問題ありません。

網契約に従う

回線の加入契約で選択した内容の設定になります。

しない

接続先に自分の電話番号を通知しません。

する

通知する電話番号とサブアドレスを設定します。電話番号を32桁以内、サブアドレスを19桁以内で設定します。なお、PIAFS（64Kbps）発信時には、設定したサブアドレスは無視され相手に通知されません。

回線接続保持タイマ

回線接続保持タイマは操作メニューでテレホーダイ開始をクリックすると有効になります。無通信監視タイマによる切断を無効とする時間を0～24時間の範囲で設定します。通信時間監視タイマを設定した時刻から設定時間が経過するまでの間、無通信状態が続いても、無通信監視タイマによる切断は行われません。

課金制御

通信総時間と課金合計金額による自動発信制限を行うかどうかを選択します。

しない

課金制御を行いません。

する

時間による制御と課金による制御が行え、両方を同時に使うこともできます。上限時間は0～999時間、上限金額は0～999999円の範囲で指定します。なお、0または空白を設定する場合は、その機能は無効となります。

[フレームリレー情報] (オプション)

フレームリレーを選択する場合だけ、以下の項目を設定します。

PVC 状態確認手順

PVC 状態確認手順を使用するかどうかを選択します。PVC 状態確認手順には以下の機能があります。

- ・ ユーザー網間のリンクの正常性を確認する機能
- ・ ユーザーユーザー間のPVC 状態を通知する機能

こんな事に気をつけて

- ・ この機能を使用する場合は、通信事業者と契約する必要があります。
- ・ PVC 状態確認手順の双方向手順はサポートしていません。

CLLM メッセージ

CLLM メッセージ受信時に輻輳制御を行うかどうかを指定します。CLLMメッセージとは網が網状態（輻輳、故障）を通知するメッセージです。本装置はこの通知内容に合わせて動作します。

こんな事に気をつけて

- ・ この機能を使用する場合は、通信事業者と契約する必要があります。

輻輳通知ビット

輻輳制御に利用するビットをチェックします。指定したビットがセットされたパケットを受信した場合、本装置は網を正常な状態に戻すためにパケットの送信を抑制します。

LAN 情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「LAN 情報」

LAN情報設定

IPアドレス	セカンダリIPアドレス	ダイナミックルーティング
スタティックルーティング	DHCP	ブリッジ情報

[IPアドレス]



IPアドレス	192 . 168 . 1 . 1
ネットマスク	24 (255.255.255.0)
ブロードキャストアドレス	ネットワークアドレス+オール1

※DHCP 機能使用時、IPアドレスを変更する場合は DHCP 機能の“割当て先頭アドレス”も確認してください。

[セカンダリIPアドレス]



IPアドレス	
ネットマスク	2 (192.0.0.0)
ブロードキャストアドレス	0.0.0.0

[ダイナミックルーティング機能]



RIP送信	☒ 送信しない ☐ V1で送信する ☐ V2で送信する
RIP受信	☒ 受信しない ☐ V1で受信する ☐ V2で受信する
《 RIP 送信時は加算するメトリック値を設定してください。》	
メトリック値 0	
《 RIP V2使用時で認証/パケットを破棄しない時はRIP V2パスワードを設定してください。》	
認証/パケット	☐ 破棄する ☒ 破棄しない パスワード

[スタティックルーティング情報一覧]



宛先IPアドレス	宛先アドレスマスク	中継ルータアドレス	メトリック値	修正/削除
追加 全削除				

[DHCP機能]

☐ 使用しない
☒ 使用する

DHCPサーバ機能

割当て先頭IPアドレス

19216812

割当てアドレス数

32

リース期間

1日

デフォルトルータ広報

19216811

DNSサーバ広報

19216811

セカンダリDNSサーバ広報

ドメイン名広報

※“割当て先頭アドレス”がSI-R30のIPアドレスと同じネットワークアドレス内であることを確認してください。

[ブリッジ情報]

☒ 使用しない
☐ 使用する

STP機能

パスコスト

☒ 自動決定
☐ 指定する

インタフェース優先度

128

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

キャンセル

[IP アドレス]

本装置のIPアドレスを設定します。

IP アドレス／ネットマスク

本装置のLAN側のIPアドレスとネットマスクを設定します。

こんな事に気をつけて

IPアドレスに0.0.0.0を設定すると通信ができなくなります。

ブロードキャストアドレス

本装置のLAN側のブロードキャストアドレスを以下の中から選択します。

- 0.0.0.0
- 255.255.255.255
- ネットワークアドレスのホスト部をオール0にしたもの
- ネットワークアドレスのホスト部をオール1にしたもの

通常は“ネットワークアドレス+オール1”から変更する必要はありません。

[セカンダリIPアドレス]

本装置はLAN側に複数のIPアドレスを持つことができます。複数のIPアドレスを使用する場合に設定します。

こんな事に気をつけて

セカンダリIPアドレスの属するネットワークには、以下のサービスは行いません。

- RIPの送受信
- DHCP機能

[ダイナミックルーティング情報]

ダイナミックルーティングを行うためのルーティング情報を設定します。

RIP送信

RIP情報を送信するかどうかを選択します。

送信しない

RIP情報を送信しません。

V1で送信する

RIP V1を使用して、30秒などにRIP情報を送信します。

V2で送信する

RIP V2を使用して、30秒などにRIP情報を送信します。

RIP受信

RIP情報を受信するかどうかを選択します。

送信しない

RIP情報を受信しません。

V1で送信する

RIP V1を使用して受信します。

V2で送信する

RIP V2を使用して受信します。

メトリック値

RIP送信時に加算するメトリック値を設定します。

認証バケット

RIP V2 使用時にだけ有効な設定です。RIP V2 では、同一パスワードグループでだけ、RIP 情報の交換を行うことができます。

破棄する

パスワード認証による RIP 情報の交換は行いません。

破棄しない

パスワード認証による RIP 情報の交換を行います。パスワードを 16 文字以内の半角英数字で設定します。

[スタティックルーティング情報一覧]

現在 LAN 側に設定しているスタティックルーティングの一覧です。

スタティックルーティングの定義は装置全体で 32 個まで設定できます。行う処理のボタンをクリックし、次のページに進みます。

[DHCP 機能]

DHCP サーバ機能

本装置を LAN 側ネットワークの DHCP サーバとして使用するかどうかを選択します。

使用しない

本装置を DHCP サーバとして使用しません。

使用する

本装置の DHCP サーバ機能を使用します。以下の項目を指定します。

割当て先頭 IP アドレス

DHCP サーバ機能により、割り当てる連続したアドレス群の先頭の IP アドレスを設定します。

割当てアドレス数

DHCP サーバ機能で割り当てるアドレス数を 1～32 の範囲で指定します。

こんな事に気をつけて

ホストデータベース機能を使用すると特定の DHCP クライアントに対して固有の IP アドレスを割り当てることができます。この場合の IP アドレスは、割当て先頭 IP アドレスと割当てアドレス数によって規定される動的割当て範囲である必要はありません。

リース期間

DHCP サーバ機能により割当てた IP アドレスを貸し出す期間を、1 時間以上、365 日未満の範囲で指定します。0 を指定すると無期限を意味します。

デフォルトルータ広報

DHCP サーバで広報するデフォルトルータの IP アドレスを設定します。省略、または 0.0.0.0 を設定すると、DHCP サーバによる広報を行いません。

DNS サーバ広報

DNS サーバの IP アドレスを設定します。省略、または 0.0.0.0 を設定すると、DHCP サーバによる広報を行いません。ProxyDNS を使用する場合は、本装置の IP アドレスを設定します。

セカンダリ DNS サーバ広報

セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。省略、または 0.0.0.0 を設定すると、DHCP サーバによる広報を行いません。

広報ドメイン名

ドメイン名を半角英数字 80 文字以内で設定します。省略する場合は、DHCP サーバによる広報を行いません。



ヒント

◆ダイナミックルーティングとスタティックルーティング

スタティックルーティングとは、目的とする接続先へ到達するまでのルートをあらかじめ設定しておき、常に固定的なルートを選択してデータ通信を行います。それに対して、ダイナミックルーティングはルータ間でルーティング情報をやりとりすることで、その都度ネットワークに応じて最適なルートを選択してデータ通信を行うものです。

[ブリッジ情報] (オプション)

相手情報で STP 機能を有効に設定するネットワーク情報がない場合は STP 機能は動作しません。

STP 機能

STP 機能を利用して経路制御を行う場合は "使用する" を選択して以下の項目を設定します。

パスコスト

STP で利用するパスコストを設定します。1～65535 の範囲で指定します。パスコストの適性値が不明な場合は "自動決定" を選択すると、自動的にパスコストが決定されます。

インタフェース優先度

STP で使用するインタフェースごとの優先度を 0～255 の範囲で指定します。値が小さい方が優先となります。

【操作】 「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]

基本情報	接続先情報	MP情報
ダイナミックルーティング	スタティックルーティング	IPフィルタリング
TOS値書き換え	NAT情報	静的NAT情報
帯域制御(WFQ)情報	ブリッジ情報	MACフィルタリング

基本情報	
ネットワーク名	
ヘッダ圧縮	☒ VJ
データ圧縮	☐ LZS
WAN側IPアドレス	☐ 設定しない ☐ 設定する 相手IPアドレス 自側IPアドレス
MTUサイズ	1500 バイト
自動ダイヤル	ISDN ☐ する ☐ しない
DLCI	FR
CIR	FR 32Kbps
MSS書き換え	☐ 使用しない ☐ 使用する MSS書き換え バイト

[接続先情報一覧]		ISDN			
優先順位	接続先	マルチルーティング ソースポート	接続制限	電話番号	修正／削除／移動
		追加		全削除	

[MP情報] **ISDN**

MP回線初期リンク数

1

アナログ使用時縮退

☒ する
☐ しない

トラフィックによる増減

☐ しない
☒ する

	回線使用率	猶予時間
回線増加条件	90 %	10 秒
回線削減条件	40 %	60 秒

受信パケット順序制御

☐ する
☒ しない

[ダイナミックルーティング機能]

RIP送信

☒ 送信しない
☐ V1で送信する
☐ V2で送信する

RIP受信

☒ 受信しない
☐ V1で受信する
☐ V2で受信する

《 RIP 送信時は加算するメトリック値を設定してください。》

メトリック値

0

《 RIP V2使用時に認証パケットを破棄しない時はRIP V2/パスワードを設定してください。》

認証パケット

☐ 破棄する
☒ 破棄しない

パスワード

[スタティックルーティング情報一覧]

宛先IPアドレス

宛先アドレスマスク

メトリック値

修正／削除

追加

全削除

[IPフィルタリング情報一覧]

優先順位	動作	プロトコル	送信元IPアドレス/マスク	送信元ポート番号	宛先IPアドレス/マスク	宛先ポート番号	TCP接続要求	TOS	修正／削除／移動

追加 全削除

[TOS値書き換え情報一覧]

優先順位	プロトコル	送信元IPアドレス/マスク	送信元ポート番号	宛先IPアドレス/マスク	宛先ポート番号	TOS	新TOS	修正／削除／移動

追加 全削除

[NAT情報]

NATの使用

☒ 使用しない
☐ NAT
☐ マルチNAT

グローバルアドレス

アドレス個数

個

アドレス割当てタイム

時間

NATセキュリティ

☐ 通常
☒ 高い

フラグメント順序変更

☒ 使用しない
☐ 使用する

[静的NAT情報一覧](マルチNATを選択時のみ有効)

プライベートアドレス	プライベートポート番号	プロトコル	修正／削除
グローバルアドレス	グローバルポート番号		

追加 全削除

[帯域制御(WFQ)情報一覧]

プロトコル	送信元IPアドレス／マスク	対象TOSフィールド値	修正／削除
	送信元ポート番号		
	宛先IPアドレス／マスク	帯域	
	宛先ポート番号		

追加 全削除

[ブリッジ情報]

ブリッジ機能

☐ 使用する
☒ 使用しない

STP機能

☐ 使用しない
☒ 使用する

パスコスト

☒ 自動決定
☐ 指定する

インタフェース優先度

128

[MACフィルタリング情報一覧]

優先順位	動作	送信元MACアドレス	フォーマット種別	修正／削除／移動
		宛先MACアドレス	LSAP/type値	

追加 全削除

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 キャンセル

[基本情報]

ルーティングの対象となるネットワークの情報を設定します。

ネットワーク名

このネットワークを識別する名称を半角英字8文字以内で設定します。

11

ネットワーク情報設定 485

ヘッダ圧縮

送受信するヘッダを圧縮します。ヘッダ圧縮のアルゴリズムは、VJヘッダ圧縮（RFC1144に準拠）をサポートします。使用する設定の場合も、実際にヘッダ圧縮を行うかどうかは、相手ホストとのネゴシエーションで決まります。

データ圧縮（オプション）

送受信するデータを圧縮します。データ圧縮のアルゴリズムは、LZSをサポートします。使用する設定の場合も、実際にデータ圧縮を行うかどうかは、相手ホストとのネゴシエーションで決まります。

WAN 側 IP アドレス

WAN 側の IP アドレスを固定で使用するかどうかを選択します。

設定しない

WAN 側の IP アドレスを固定で設定しません。

設定する

固定で使用する WAN 側の IP アドレスを設定します。“相手 IP アドレス”または“自側 IP アドレス”の一方だけを指定し、他方を省略することもできます。

主にプロバイダ接続する場合や本装置どうしの接続の場合には、両方とも省略することができます。本装置以外の装置との接続のように対等な関係で接続する場合は、両方とも WAN 側の IP アドレスを指定します。

MTU サイズ

最大パケット送信サイズ（Maximum Transmission Unit）を 200～1500 バイトの範囲で設定します。ブリッジ通信する場合は、“1500”を設定してください。ブリッジではパケットフラグメント機能がないため、“1500”未満の MTU を設定するとその MTU 長を超えたパケットのブリッジができず、正常な通信ができなくなります。

自動ダイヤル

データ通信発生時に自動的にダイヤルするかどうかを選択します。使用する場合は、データ通信発生時に自動的にダイヤルします。

こんな事に気をつけて

回線情報で自動ダイヤルを“すべて禁止”としている場合には自動ダイヤルは行いません。自動ダイヤルを行う場合は回線情報の自動ダイヤルを“相手毎に設定”とします。

DLCI（オプション）

16～991 の範囲で設定します。DLCI を設定できるネットワークは 16 個まで設定できます。

CIR (オプション)

CIRを設定します。

MSS書き換え

MSS 書き換え機能の設定をします。MSS 書き換え機能を使用する場合は“使用する”を選択します。書き換えサイズを0または160～1460の範囲で指定します。0を指定した場合はMSS 書き換え機能が無効となります。

[接続先一覧]

現在設定されている接続先の情報です。マルチルーティングを行う場合には、優先順位の1から順に評価され最初に条件が成立した接続先にデータが流れます。接続先の定義は装置全体で16個まで設定できます。行う処理のボタンをクリックし、次のページに進みます。

[MP 情報]

MP (MultilinkPPP) の情報を設定します。

MP 回線初期リンク数

回線接続時に接続するチャンネル数を指定します。

アナログ使用時縮退

MPで2本のチャンネルを使用している時に、アナログ電話がかかってきたり、アナログ電話の受話器を上げたりする場合に、チャンネルを1本に減らしてアナログ機器を使用することができます。これを行う場合は“する”をチェックします。

トラフィックによる増減

回線負荷に応じて帯域幅(1B,2B)を自動的にコントロールする機能(BOD)を使用するかどうかを設定します。“する”を選択する場合は、回線増減の条件も指定します。指定する回線使用率を超える(削減の場合は下回った)状態が“猶予時間”以上続く時点で、回線の接続(削減の場合は切断)を行います。回線使用率は0～100%、猶予時間は0～3600秒の範囲で指定します。

この機能を利用する場合、主に発信側となる装置のBOD機能を有効にし、着信側となる装置のBOD機能は無効にしてください。発信側および着信側の両装置でBOD機能を有効にすると、両装置の仕様差により、着信側から発呼する場合があります。着信側に課金が発生する場合がありますので注意してください。なお、BAP/BACP機能をサポートする相手装置と接続する場合は、接続先情報のMP接続でBAP/BACP利用を必ず“する”にしてください。

受信パケット順序制御

MPを使用する場合は、必ず“する”をチェックします。“しない”をチェックすると、MPとヘッダ圧縮を併用する場合にヘッダ圧縮が無効になります。

[ダイナミックルーティング機能]

ダイナミックルーティングを行うためのルーティング情報を設定します。

RIP 送信

RIP 情報を送信するかどうかを選択します。送信する設定にすると、30 秒などに RIP 情報を送信します。

こんな事に気をつけて

ISDN の場合、RIP 情報を送信すると思わぬ課金（定期発信または長時間接続）が発生します。

RIP 受信

RIP 情報を受信するかどうかを選択します。

メトリック値

RIP 送信時に加算するメトリック値を設定します。

認証バケット

RIP V2 使用時にだけ有効な設定です。RIP V2 では、同一パスワードグループでだけ、RIP 情報の交換を行うことができます。

破棄する

パスワード認証による RIP 情報の交換は行いません。

破棄しない

パスワード認証による RIP 情報の交換を行います。パスワードを半角英数字 16 文字以内で設定します。

[スタティックルーティング情報一覧]

現在このネットワークに設定しているスタティックルーティングの一覧です。スタティックルーティングの定義は装置全体で 32 個まで設定できます。行う処理のボタンをクリックし、次のページに進みます。

[IP フィルタリング情報一覧]

現在このネットワークに設定している IP フィルタリングの定義の一覧です。処理は優先順位 1 から順に行います。IP フィルタリングの定義は装置全体で 32 個まで設定できます。行う処理のボタンをクリックし、次のページに進みます。

[TOS 値書き換え情報一覧] (オプション)

現在このネットワークに設定しているTOS値書き換え情報の定義の一覧です。処理は優先順位1から順に行います。TOS値書き換えの定義は装置全体で32個まで設定できます。行う処理のボタンをクリックし、次のページに進みます。

[NAT 情報]

NATに関する情報を設定します。

NAT の使用

NATを使用するかどうかを選択します。マルチNATを使うと複数の端末を同時に使用できます。NATを使用しない場合には、以下の設定は無効です。

グローバルアドレス

特定のグローバルアドレスを使用する場合に指定します。設定しない場合は自動で割り当てられます。

アドレス個数

複数個のグローバルアドレスを使用する場合は、上述のグローバルアドレスを先頭とし、連続した複数のアドレスを指定します。その個数を1～16の範囲で指定します。

アドレス割当てタイマ

アドレス変換情報は一定の時間該当する通信を行わないと、自動的に解放されます。解放するための猶予時間を0～24時間の範囲で指定します。0を指定すると、回線が切断するまで情報は解放されません。

NAT セキュリティ

通常

相手サーバがNATを使用する場合など、要求先とは別のアドレスから応答する場合に選択します。

高い

ftpやdnsの要求する相手からの応答かどうかをチェックします。

フラグメント順序変更

NATは、フラグメントされたパケットの順序を前後逆転して受信した場合、そのパケットを破棄します。フラグメントされたパケットの順序が逆転しないように、あらかじめパケットを整列させる場合は、"使用する"を選択します。

[静的NAT情報一覧]

NATを使用すると、アドレス変換情報は固定で持つことができます。現在設定している固定のアドレス変換情報一覧です。

静的NATの定義は装置全体で32個まで設定できます。行う処理のボタンをクリックし、次のページに進みます。

[帯域制御（WFQ）情報一覧]（オプション）

現在このネットワークに設定している帯域制御（WFQ）の定義の一覧です。帯域制御（WFQ）の定義は装置全体で32個まで設定できます。行う処理のボタンをクリックし、次のページに進みます。

[ブリッジ情報]（オプション）

ブリッジ機能

接続相手とブリッジで通信する場合は"使用する"を選択します。

STP機能

STP機能を利用して経路制御を行う場合は"使用する"を選択します。以下の項目を設定します。この設定項目はブリッジ機能を使用する場合だけ有効です。

パスコスト

STPで利用するパスコストを設定します。1～65535の範囲で指定します。パスコストの適性値が不明な場合は"自動決定"を選択します。自動的にパスコストが決定されます。

インタフェース優先度

STPで使用するインタフェースごとの優先度を0～255の範囲で指定します。値が小さい方が優先となります。

[MACフィルタリング情報一覧]（オプション）

現在のWAN回線接続のMACフィルタリング情報の一覧です。MACフィルタリング情報は装置全体で64個まで定義できます。行う処理のボタンをクリックし、次のページに進みます。

IPフィルタリング情報（ネットワーク情報）

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]→
[IPフィルタリング情報一覧]

IPフィルタリング情報

動作 ☒ 透過 ☐ 透過(接続中のみ) ☐ 遮断

プロトコル すべて (番号指定: "その他"を選択時のみ有効です)

送信元情報	IPアドレス	
	アドレスマスク	0 (0.0.0.0)
	ポート番号[.]	
宛先情報	IPアドレス	
	アドレスマスク	0 (0.0.0.0)
	ポート番号[.]	
TCP接続要求 ☒ 対象 ☐ 対象外		
TOS		

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

優先順位の高い定義より順にパケットのチェックを行い、すべての条件が一致する場合に定義する動作を行います。ただし、分割されたパケットに対しては正しく扱えません。

動作

IPフィルタリングの動作を以下の3つから選択します。

透過

条件と一致する場合にパケットを透過します。

透過（接続中のみ）

条件と一致する場合に、ISDN回線が接続しているときはパケット透過します。切断しているときは遮断します。

遮断

条件と一致する場合にパケットを遮断します。

プロトコル

フィルタリング条件としてプロトコルを以下の5つから選択します。

- すべて (0)
- ICMP (1)
- TCP (6)
- UDP (17)
- その他

“その他”を選択する場合、プロトコル番号を0～255の範囲の10進数で指定します。

送信元／宛先情報

IP アドレス／アドレスマスク

フィルタリング条件としてのIPアドレス、およびアドレスマスクを設定します。

チェック対象となるパケットのIPアドレスと定義するアドレスマスクの論理積と、定義するIPアドレスとアドレスマスクの論理積が等しい場合に条件に一致することになります。

ポート番号

フィルタリング条件としてポート番号を1～65535の範囲の10進数または‘any’で設定します。‘any’を設定する場合はすべてのポート番号をフィルタリングの対象とします。また、ポート番号を複数指定する場合は‘,’で区切ります。範囲指定の場合は‘-’で区切ります。送信元情報と宛先情報を合わせて10組まで設定できます。

TCP 接続要求

TCPプロトコルでのコネクション接続要求をフィルタリングの対象に含めるかどうかを設定します。

TOS (オプション)

IPパケットのTOSフィールド値を0～ffの範囲の16進数または‘any’で設定します。TOSフィールド値を複数指定する場合は‘,’で区切ります。範囲指定の場合は‘-’で区切ります。10組まで設定できます。何も設定しない場合はすべてのTOSフィールド値をフィルタリングの対象とします。

TOS 値書き換え情報（ネットワーク情報）

【操作】 「詳細設定メニュー」 → ルータ設定「相手情報」 → [ネットワーク情報一覧] → [TOS 書き換え情報一覧]

TOS値書き換え情報

プロトコル	すべて (番号指定: “その他”を選択時のみ有効です)		
送信元情報	IPアドレス	. . .	
	アドレスマスク	0 (0.0.0.0)	
	ポート番号[.]		
宛先情報	IPアドレス	. . .	
	アドレスマスク	0 (0.0.0.0)	
	ポート番号[.]		
TOS			
新TOS			

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新
キャンセル

この機能は、拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

[TOS 値書き換え情報]

優先順位の高い定義より順にパケットのチェックを行い、すべての条件が一致する場合に定義する TOS 値書き換えを行います。ただし、分割されたパケットに対しては正しく扱えません。

プロトコル

TOS 値書き換えの条件としてプロトコルを次の5つから選択します。

- ・すべて (0)
- ・ICMP (1)
- ・TCP (6)
- ・UDP (17)
- ・その他

“その他”を選択する場合、プロトコル番号を0～255の範囲の10進数で指定します。

送信元／宛先情報

IP アドレス／アドレスマスク

TOS 値書き換え条件としての IP アドレス、およびアドレスマスクを設定します。チェック対象となす r パケットの IP アドレスと定義するアドレスマスクの論理積と、定義する IP アドレスとアドレスマスクの論理積が等しい場合に条件に一致したことになります。

送信元（宛先）情報のポート番号

TOS 値書き換え条件としてポート番号を 1～65535 の範囲の 10 進数または 'any' で設定します。'any' を設定する場合はすべてのポート番号が TOS 書き換えの対象となります。また、ポート番号を複数指定する場合は ',' で区切ります。範囲指定の場合は '-' で区切ります。送信元情報と宛先情報で合わせて 10 組まで設定できます。

TOS

TOS 値書き換えの条件として IP パケットの TOS フィールド値を 0～ff の範囲の 16 進数または 'any' で設定します。TOS フィールド値を複数指定する場合は ',' で区切ります。範囲指定の場合は '-' で区切ります。10 組まで設定できます。何も設定しない場合はすべての TOS フィールド値を書き換えの対象とします。

新TOS

IP パケットに新しく設定する TOS フィールド値を 0～ff の範囲の 16 進数で設定します。

帯域制御（WFQ）情報設定

【操作】 「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]→
[帯域制御（WFQ）情報一覧]

帯域制御(WFQ)情報設定

プロトコル (番号指定: “その他”を選択時のみ有効です)

送信元情報	IPアドレス	
	アドレスマスク	0 (0.0.0.0)
	ポート番号[.]	
宛先情報	IPアドレス	
	アドレスマスク	0 (0.0.0.0)
	ポート番号[.]	
対象TOSフィールド値		
帯域		100 %

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

この機能は、拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

設定する任意のプロトコル、IP アドレス、ポート番号、TOS フィールド値の条件を元に、帯域を割り当てます。

プロトコル

帯域制御（WFQ）の対象となるプロトコルを次の5つから選択します。IP プロトコルだけ使用できます。

- ・すべて (0)
- ・ICMP (1)
- ・TCP (6)
- ・UDP (17)
- ・その他

“その他”を選択する場合、プロトコル番号を0～255の範囲の10進数で指定します。

送信元／宛先情報

IP アドレス／アドレスマスク

帯域制御（WFQ）の対象となるIPアドレス、およびアドレスマスクを指定します。対象となるパケットのIPアドレスと定義するアドレスマスクの論理積と、定義するIPアドレスとアドレスマスクの論理積が等しい場合に条件に一致することになります。

ポート番号

帯域制御（WFQ）の対象となるポート番号を1～65535の範囲の10進数または‘any’で設定します。‘any’を設定する場合はすべてのポート番号が対象となります。また、ポート番号を複数指定する場合は‘,’で区切ります。範囲指定の場合は‘-’で区切ります。送信元情報と宛先情報を合わせて10組まで設定できます。

対象TOSフィールド値

帯域制御（WFQ）の対象となるTOSフィールド値を0～ffの範囲の16進数で設定します。TOSフィールド値を複数指定する場合は‘,’で区切ります。範囲指定の場合は‘-’で区切ります。10組まで設定できます。何も設定しない場合はすべてのTOSフィールド値を帯域制御（WFQ）の対象とします。

帯域

割り当てる帯域（％）を0～100の範囲の10進数で設定できます。0は非優先（ベストエフォート）、100は最優先を表します。同じ相手ネットワーク中で、0のものと100のものを除いたものの帯域トータルが100を超えないように設定してください。

MACフィルタリング情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]→
[MACフィルタリング情報一覧]

MACフィルタリング情報設定

動作

☒ 透過
 ☐ 透過(接続中のみ)
 ☐ 遮断

送信元MACアドレス

すべて

アドレス指定("指定する"を選択時のみ有効です)

宛先MACアドレス

すべて

アドレス指定("指定する"を選択時のみ有効です)

フォーマット識別

すべて

"LLC形式"の場合はLSAP、"Ethernet形式"の場合はtype値を入力してください

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

この機能は、拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

WAN モジュールで送受信するときにフィルタリング処理をします。優先順位の高い定義より、順にパケットをチェックします。フィルタリング条件が一致する場合に定義する動作を行います。

動作

フィルタリング条件に一致する時の動作を指定します。MAC フィルタリングの動作を次の3つから選択します。

透過

フィルタリング条件と一致する場合に、透過します。

透過（接続中のみ）

フィルタリング条件と一致する場合に、回線が接続しているときは、透過します。切断しているときは、破棄します。

遮断

フィルタリング条件と一致する場合に、遮断します。

送信元（送信先）MACアドレス

MAC アドレスを以下の項目から選択します。" 指定する " を選択する場合はアドレス指定に MAC アドレスを 16 進数で指定します。

すべて

すべての MAC アドレスを対象とします。

ブロードキャスト

ブロードキャスト MAC アドレスを対象とします。

マルチキャスト

ブロードキャスト MAC アドレスおよびマルチキャスト MAC アドレスを対象とします。

指定する

アドレス指定に指定する MAC アドレスを対象とします。

フォーマット種別

フィルタリング対象のフォーマットを以下の項目から選択します。LLC 形式の場合は LSAP を 0 (0) ～ ffff (65535) の範囲の 16 進数、"Ethernet 形式" の場合は type 値を 5dd (1501) ～ ffff (65535) の範囲の 16 進数で指定します。

LLC 形式

LLC 形式のパケットを対象とします。

Ethernet 形式

Ethernet 形式のパケットを対象とします。

すべて

すべてのパケットを対象とします。

不特定相手情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]

不特定相手情報設定

基本情報 MP情報 IPフィルタリング
TOS値書き換え情報

[基本情報]

割当先頭アドレス	
同時接続許可数	1
DNSサーバ	
ヘッダ圧縮	☒ VJ
データ圧縮	☐ LZS
無通信監視タイム	0 秒

[MP情報]

MP回線初期リンク数	1	※コールバック応答時に有効									
アナログ使用時縮退	☐ する ☐ しない										
トラフィックによる増減	☐ しない ☐ する										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回線使用率</th> <th>猶予時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回線増加条件</td> <td> 90 %</td> <td> 10 秒</td> </tr> <tr> <td>回線削減条件</td> <td> 40 %</td> <td> 60 秒</td> </tr> </tbody> </table>		回線使用率	猶予時間	回線増加条件	90 %	10 秒	回線削減条件	40 %	60 秒	※コールバック応答時またはBAP/BACP使用時に有効
	回線使用率	猶予時間									
回線増加条件	90 %	10 秒									
回線削減条件	40 %	60 秒									
受信パケット順序制御	☐ する ☐ しない										

[IPフィルタリング情報一覧]

優先順位	動作	プロトコル	送信元IPアドレス/マスク 送信元ポート番号 宛先IPアドレス/マスク 宛先ポート番号	TCP接続要求	TOS	修正/削除/移動
追加 全削除						

[TOS値書き換え情報一覧]

優先順位	プロトコル	送信元IPアドレス/マスク 送信元ポート番号 宛先IPアドレス/マスク 宛先ポート番号	TOS 新TOS	修正/削除/移動
追加 全削除				

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 キャンセル

[基本情報]

相手情報で定義したどの相手とも判断できない着信相手に対する動作に関する情報を設定します。

割当先頭アドレス

着信相手に対して、割り当てる先頭の IP アドレスを指定します。同時接続許可数と組み合わせて範囲（許可数）を指定します。

割当先頭アドレスを省略する場合は、不特定相手からの着信は行われません。

同時接続許可数

割当先頭アドレスを先頭に、同時接続許可数分の IP アドレスが割当てられます。

DNS サーバ

相手から要求があるときに、通知する DNS サーバの IP アドレスを設定します。

ヘッダ圧縮

送受信するヘッダを圧縮します。ヘッダ圧縮のアルゴリズムは、VJ ヘッダ圧縮（RFC1144 に準拠）をサポートします。使用する設定の場合も、実際にヘッダ圧縮を行うかどうかは、相手ホストとのネゴシエーションで決まります。

データ圧縮（オプション）

送受信するデータを圧縮します。データ圧縮のアルゴリズムは、LZS をサポートします。使用する設定の場合も、実際にデータ圧縮を行うかどうかは、相手ホストとのネゴシエーションで決まります。

無通信監視タイマ

ISDN 回線の無通信監視タイマを 0 ～ 3600 秒の範囲で設定します。その時間を超えても、通信が行われない場合は、ISDN 回線を自動的に切断します。なお、0 を設定する場合、自動切断を行いません。

[MP 情報]

MP（MultilinkPPP）の情報を設定します。

MP 回線初期リンク数

回線接続時に接続するチャンネル数を指定します。

アナログ使用時縮退

MP で 2 本のチャンネルを使用している時に、アナログ電話がかかってきたり、アナログ電話の受話器を上げたりする場合に、チャンネルを 1 本に減らしてアナログ機器を使用することができます。これを行う場合は“する”をチェックします。

トラフィックによる増減

回線負荷に応じて帯域幅（1B,2B）を自動的にコントロールする機能を使用するかどうかを設定します。使用する場合は、回線増減の条件も指定します。指定する回線使用率を超える（削減の場合は下回った）状態が“猶予時間”以上続く時点で、回線の接続（削減の場合は切断）を行います。回線使用率は0～100%、猶予時間は0～3600秒の範囲で指定します。

受信パケット順序制御

MPを使用する場合は、必ず“する”をチェックします。“しない”をチェックすると、MPとヘッダ圧縮を併用する場合にヘッダ圧縮が無効になります。

[IP フィルタリング情報一覧]

現在設定しているIPフィルタリングの定義の一覧です。処理は優先順位1から順に行います。IPフィルタリングの定義は装置全体で32個まで設定できます。行う処理のボタンをクリックし、次のページに進みます。

[TOS 値書き換え情報一覧]（オプション）

現在設定しているTOS値書き換え情報の定義の一覧です。処理は優先順位1から順に行います。TOS値書き換えの定義は装置全体で32個まで設定できます。行う処理のボタンをクリックし、次のページに進みます。

IPフィルタリング情報（不特定相手情報）

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]→
[IPフィルタリング情報]

IPフィルタリング情報

動作 ☒ 透過 ☐ 透過(接続中のみ) ☐ 遮断

プロトコル すべて (番号指定: "その他"を選択時のみ有効です)

送信元情報	IPアドレス	
	アドレスマスク	0 (0.0.0.0)
	ポート番号[.]	
宛先情報	IPアドレス	
	アドレスマスク	0 (0.0.0.0)
	ポート番号[.]	
TCP接続要求 ☒ 対象 ☐ 対象外		
TOS		

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

優先順位の高い定義より順にパケットのチェックを行い、すべての条件が一致する場合に定義された動作を行います。ただし、分割されたパケットに対しては正しく扱えません。

動作

IPフィルタリングの動作を以下の3つから選択します。

透過

条件と一致する場合にパケットを透過します。

透過（接続中のみ）

条件と一致する場合に、ISDN回線が接続しているときは、パケット透過します。切断しているときは、遮断します。

遮断

条件と一致する場合にパケットを遮断します。

プロトコル

フィルタリング条件としてプロトコルを以下の5つから選択します。

- すべて (0)
- ICMP (1)
- TCP (6)
- UDP (17)
- その他

“その他”を選択する場合、プロトコル番号を0～255の範囲の10進数で指定します。

送信元／宛先情報

IP アドレス／アドレスマスク

フィルタリング条件としてのIPアドレス、およびアドレスマスクを設定します。

チェック対象となるパケットのIPアドレスと定義するアドレスマスクの論理積と、定義するIPアドレスとアドレスマスクの論理積が等しい場合に条件に一致することになります。

ポート番号

フィルタリング条件としてポート番号を1～65535の範囲の10進数または‘any’で設定します。‘any’を設定する場合はすべてのポート番号をフィルタリングの対象とします。また、ポート番号を複数指定する場合は‘,’で区切ります。範囲指定の場合は‘-’で区切ります。送信元情報と宛先情報を合わせて10組まで設定できます。

TCP 接続要求

TCPプロトコルでのコネクション接続要求をフィルタリングの対象に含めるかどうかを設定します。

TOS (オプション)

IPパケットのTOSフィールド値を0～ffの範囲の16進数または‘any’で設定します。TOSフィールド値を複数指定する場合は‘,’で区切ります。範囲指定の場合は‘-’で区切ります。10組まで設定できます。何も設定しない場合はすべてのTOSフィールド値をフィルタリングの対象とします。

TOS 値書き換え情報（不特定相手情報）

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]→
[TOS 書き換え情報一覧]

TOS値書き換え情報

?

プロトコル	すべて (番号指定: “その他”を選択時のみ有効です)
送信元情報	IPアドレス
	アドレスマスク 0 (0.0.0.0)
	ポート番号[.]
宛先情報	IPアドレス
	アドレスマスク 0 (0.0.0.0)
	ポート番号[.]
TOS	
新TOS	

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

この機能は、拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

[TOS 値書き換え情報]

優先順位の高い定義より順にパケットのチェックを行い、すべての条件が一致する場合に定義する TOS 値書き換えを行います。ただし、分割されたパケットに対しては正しく扱えません。

プロトコル

TOS 値書き換えの条件としてプロトコルを次の5つから選択します。

- ・すべて (0)
- ・ICMP (1)
- ・TCP (6)
- ・UDP (17)
- ・その他

“その他”を選択する場合、プロトコル番号を0～255の範囲の10進数で指定します。

送信元／宛先情報

IP アドレス／アドレスマスク

TOS 値書き換え条件としての IP アドレス、およびアドレスマスクを設定します。チェック対象となるパケットの IP アドレスと定義するアドレスマスクの論理積と、定義する IP アドレスとアドレスマスクの論理積が等しい場合に条件に一致することになります。

ポート番号

TOS 値書き換え条件としてポート番号を 1～65535 の範囲の 10 進数または 'any' で設定します。'any' を設定する場合はすべてのポート番号が TOS 書き換えの対象となります。また、ポート番号を複数指定する場合は ',' で区切ります。範囲指定の場合は '-' で区切ります。送信元情報と宛先情報で合わせて 10 組まで設定できます。

TOS

TOS 値書き換えの条件として IP パケットの TOS フィールド値を 0～ff の範囲の 16 進数または 'any' で設定します。TOS フィールド値を複数指定する場合は ',' で区切ります。範囲指定の場合は '-' で区切ります。10 組まで設定できます。何も設定しない場合はすべての TOS フィールド値を書き換えの対象とします。

新TOS

IP パケットに新しく設定する TOS フィールド値を 0～ff の範囲の 16 進数で設定します。

装置情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「装置情報」

装置情報設定

タイムサーバ情報	システムログ情報	ファームウェア更新情報
SNMP情報	ブリッジ情報	オンラインサポート情報
留守モード情報		

[タイムサーバ情報]



タイムサーバ	☒ 使用しない ☐ 使用する	
	プロトコル	☒ TIMEプロトコル ☐ SNTP
	時刻サーバIPアドレス	
	自動時刻設定間隔	日

[システムログ情報]



システムログ送信	☒ 送信しない ☐ 送信する	
	送信先ホスト	

[ファームウェア更新情報]



転送元ホスト名	
ログインID	
ログインパスワード	
ファイルロケーション	

[SNMP情報]

SNMPエージェント機能

☒ 使用しない
☐ 使用する

ルータ管理者

機器名称

機器設置場所

SNMPホスト1

☒ publicとする(任意のホストを対象とする)
☐ 指定する

コミュニティ名

IPアドレス

トラップ

☒ 送信しない
☐ 送信する

書き込み要求

☒ 許可しない
☐ 許可する

SNMPホスト2

☐ 指定しない
☒ 指定する

コミュニティ名

IPアドレス

トラップ

☒ 送信しない
☐ 送信する

書き込み要求

☒ 許可しない
☐ 許可する

[ブリッジ情報設定]

学習テーブル生存時間

5

分

ブリッジの優先度

32768

ブリッジのハロー待ち時間

20

秒

ブリッジのハロー送出間隔

2

秒

フォワーディング遅延時間

15

秒

[オンラインサポート情報]

☐ しない
☒ する

オンラインサポート接続

センタ電話番号

暗証番号

[留守モード情報]

動作

☐ 留守モード中は、スタンバイモードで動作する
☐ 留守モード中は、メールを転送する
☐ 留守モード中は、メールの一覧を送信する
☐ 留守モード中は、TELメールを送信する
☐ 着信転送

☒ 留守モード中は、着信転送を行う
☐ 留守モード中は、疑似着信転送を行う

☐ 留守モード中は、アナログの留守確認機能を使用する
☐ 留守モードを解除する時にメールチェックを行う

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 キャンセル

[タイムサーバ情報]

本装置は、ネットワーク上のタイムサーバから時刻情報を取得し、内部時計を自動的に設定できます。

タイムサーバ

使用しない

タイムサーバを使用せずに内部時計を設定します。

使用する

タイムサーバから時刻情報を取得します。以下の情報を設定します。

プロトコル

使用するプロトコルを選択します。

時刻サーバのIPアドレス

タイムサーバのIPアドレスを指定します。

自動時刻設定間隔

タイムサーバから定期的に時刻情報を取得するときの取得周期を0～10日の範囲で設定します。0を設定すると、起動（再起動）時だけ時刻情報を取得します。

[システムログ情報]

本装置は、syslog形式でシステムログサーバにシステムログ情報を送信します。

システムログ送信

送信しない

システムログを送信しません。

送信する

システムログサーバにシステムログ情報を送信する送信先のIPアドレスを設定します。

[ファームウェア更新情報]

ファームウェアを入れ替えたり、レベルアップを行うときに、転送元となるホストに接続するための情報を設定します。ファームウェアの更新操作はメンテナンスメニューから行うことができます。

転送元ホスト名

更新ファームウェアが存在するホスト名を半角英数字128文字以内で設定します。

ドット表記のIPアドレスを設定することもできます。通常は変更の必要はありません。

こんな事に気をつけて

ProxyDNSが設定されていない場合、ホスト名指定によるファームウェア更新はできません。

ログインID

ファームウェア更新用のログインIDを16文字以内で設定します。通常は変更の必要はありません。

ログインパスワード

ファームウェア更新用のパスワードを32文字以内で設定します。通常は、本装置管理者のメールアドレスをここに記述します。

ファイルロケーション

更新用ファームウェアのロケーションを80文字以内で設定します。通常は変更の必要はありません。

[SNMP 情報] (オプション)

SNMP エージェント機能

SNMP エージェント機能を使用すると、SNMP マネージャの動作している他のシステムから本装置の状態を監視することができます。SNMP エージェント機能を使用する場合は“使用する”をチェックし、以下の項目も設定します。

ルータ管理者

本装置の管理者名を半角英数字40文字以内で設定します。ただし、空白文字は使用できません。区切り文字は“_”や“.”を使用します。

機器名称

本装置の名称を半角英数字32文字以内で設定します。ただし、空白文字は使用できません。

機器設置場所

本装置の設置場所を半角英数字72文字以内で設定します。ただし、空白文字は使用できません。

SNMP ホスト

SNMP によるアクセスを許可するホストを設定します。ホストは2つまで指定できます。“public とする”をチェックすると、コミュニティ名“public”で任意のホストからのアクセ

スを許可します。コミュニティ名を変更する場合やホストを限定する場合は、“指定する”をチェックし、コミュニティ名・IP アドレス・トラップ送信可否を指定します。

コミュニティ名

SNMPにより情報交換するグループのコミュニティ名を半角英数字32文字以内で設定します。

IP アドレス

SNMPによるアクセスを許可するホストのIP アドレスを設定します。“0.0.0.0”を指定すると、任意のホストのアクセスを許可します。

トラップ

このSNMP ホストにトラップを送信する場合は、“送信する”をチェックします。ただし、任意のホスト（0.0.0.0）を指定している場合は、トラップの送信は行われません。

書き込み要求

このSNMP ホストから書き込み要求を許可する場合は、“許可する”をチェックします。ただし、任意のホスト（0.0.0.0）を指定する場合は、書き込み要求は許可されません。

[ブリッジ情報設定] (オプション)

ブリッジ情報設定項目はブリッジ機能を使用する場合だけ有効です。

学習テーブル生存時間

学習テーブル生存時間を設定して、指単位を以下の項目から選択します。

- 秒（10～1,000,000）

- 分（1～16,666）

- 時間（1～277）

- 日（1～11）

（）内は単位ごとの指定可能な範囲を表します。

ブリッジの優先度

ルートブリッジ決定アルゴリズムで使用するブリッジの優先度を0～65535の範囲で指定します。ブリッジの優先度は値の小さい方が優先となります。この設定はSTPを使用する場合だけ有効です。

ブリッジのハロー待ち時間

ルートブリッジまたは代表ブリッジが送出する構成情報BPDUの待ち時間を6～40秒の範囲で指定します。この設定はSTPを使用する場合だけ有効です。

ブリッジのハロー送出間隔

ルートブリッジになった時に送出する構成情報BPDUの送出間隔を1～10秒の範囲で指定します。この設定はSTPを使用する場合と本装置がルートブリッジとして動作する場合だけ有効です。

フォワーディング遅延時間

構成情報BPDUが一番時間のかかる経路に届く時間を指定します。フォワーディング遅延時間を4～30秒の範囲で指定します。この設定はSTPを使用する場合と本装置がルートブリッジとして動作する場合だけ有効です。

[オンラインサポート情報]

オンラインサポート接続

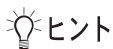
オンラインサポート接続をするかどうかを指定します。センタ側からのオンラインサポート接続を許可する場合には“する”、拒否する場合には“しない”をチェックします。オンラインサポート接続を許可するときにセンタ電話番号と暗証番号のどちらも設定していない場合、LANポート用のMACアドレスを認証に使用します。

センタ電話番号

オンラインサポートを受けつける相手電話番号を32桁以内で指定します。

暗証番号

オンラインサポートを受けつける相手との暗証番号を半角英数字19桁以内で指定します。



ヒント

◆ オンラインサポートとは

ISDN回線に接続した遠隔地（リモート側）の本装置を、管理者側（センター側）の本装置を使用して直接設定する機能です。本機能ではPPPによるIP接続を必要としないので、ご購入時の状態のまま、本装置を設定することができます。ただし、専用線（HSD）では使用できません。

以下の手順で設定を行うことができます。

- 1) WWWブラウザを使用してセンター側の本装置のトップメニューを開きます。
- 2) 「メンテナンスメニュー」の「オンラインサポート」で、リモート側の電話番号と暗証番号を指定し、「オンラインサポート開始」ボタンをクリックします。
- 3) 正常に接続したあとは、センター側の本装置を設定するのと同様の手順でリモート側の設定を行うことができます。
- 4) 「メンテナンスメニュー」の「オンラインサポート」で、「オンラインサポート終了」ボタンをクリックしてオンラインサポートを終了します。

こんな事に気をつけて

- ・ 本機能を使用して発信するにはINSネット64の「ユーザ間情報通知サービス」を使用するため、1回の発信につき1メッセージ分の料金が通信料金とは別にかかります。
- ・ オンラインサポート中は、ISDN回線は接続されたままとなります。無通信監視タイマによる自動切断は行われません。設定終了後は必ずオンラインサポートを終了し回線が切断されたことを確認します。

- ・ 暗証番号にはリモート側の本装置に設定された暗証番号を指定します。一致しない場合は接続できません。なお、リモート側の本装置ご購入時の状態、またはオンラインサポート情報未設定の場合は、暗証番号としてMACアドレスを指定することにより接続できます。MACアドレスは装置底面に表記されているとおり半角小文字の英数字で指定します。
 - ・ 本機能を利用する際には、センタ側とリモート側に同一機種の本装置を使用します。ただし、製品名またはバージョンが異なる場合、設定できない項目もあります。
-

[留守モード情報]

留守モードに割り当てる動作を選択します。装置のアナログポートに接続されている電話機、操作メニュー、またはスケジュール機能により、留守モードの切替えができます。

スタンバイモードで動作する

留守モード中はスタンバイモードになります。

メールを転送する

メールチェックで取得するメールを転送します。

メールの一覧を送信する

メールチェックで取得するメールの一覧を送信します。

TEL メールを送信する

アナログポートに接続している電話機の着信履歴をメールで送信します。

着信転送

着信転送を行う

アナログポートに接続している電話機の着信を着信転送します。

疑似着信転送を行う

アナログポートに接続している電話機の着信を疑似着信転送します。

アナログの留守確認機能を使用する

外線からON／OFFを確認できます。

解除する時にメールチェックを行う

留守モードを解除する時にメールチェックを行います。